

アメリカ滞在記 ⑪

峡谷から大峡谷、そして死の谷へI

霧野萬地郎

▼1983年の年末休暇だった。まだ健在だった、パン・アメリカン航空のマイレージを使って、家族5人の無料航空券と、宿泊、及びレンタカーの割引券を得る事ができた。

東海岸から朝の便に乗り、西海岸のロスアンゼルス(LA)へ昼に到着した。時差は3時間ある。空港でレンタカーを得て、LAの市街を外し、国道15号へ入り、一気にラスベガスへ向かう。250マイル(380キロ)の道のりを走る。礫漠地帯の中を抜ける舗装路でスピードは正に毎分1マイルと測った様に走行すれば、これが法定速度だ。

この道の遠くには軍の施設も有らしい。ドライバー達のスナックが所々にあり、そこで、水やビスケットなどを買い求めた。

夜の闇が迫る頃に、加州からネバダ州へ、その州境を越えれば、小さなカジノの灯りが見え始める。次第にネオンの数も増え、やがて、煌々と光るラスベガス市内のヒルトンホ

テルに入った。マイレージの宿泊割引券がここでは利用できる。

▼翌早朝よりアメリカの誇る大自然の公園へ向かう。それらは三つの峡谷、ブライス峡谷、ザイオン峡谷、そして、グランドキャニオンで、幾億年の地殻の隆起、捻り、浸蝕などを経ながら地層的には繋がりを保持しているらしい。地球誕生以後の長い時間をかけ、最上層にブライス峡谷、中層にザイオン峡谷、最下層にグランドキャニオンを作りあげた。

車は市内から15号線に再び戻り、ネバダ州からアリゾナ州への境を越える。ここで太平洋時間帯からロッキー山脈時間帯に入るため、時計を一時間進ませる。更に10マイル程北上すれば、今度はユタ州へ入る。

ユタ州の最初の見所は州道9号線に入ったザイオン峡谷だ。巨岩がそそり立つ溪谷の底を縫うように舗装路が続く。時折り雨がぱらつく生憎の天候だが、見上げれば岩山に挟まれた空が狭い。曲がりくねった道を抜けて、更に北上すれば、雨は小雪になってきた。やがて赤味を帯びた岩山が多くなる。奇形な巨石が岩山に積まれる様にあったりするので、

運転していても飽きない。途中には、町はもとより小さな店すらも殆ど無い。

国道89号から

州道12号を継いでブライスキャニオンへ入る。アメリカの自然公園で最良な公園と云われ、そして、その最も美しい雪の季節に訪ねる幸せを味わう。駐車場に車を



ブライス溪谷

置いて、細い雪道を子供らの手を取って展望台へ行けば、誰も居ない雪の積もった手付かずの奇岩の林立が眼下に広がる。新雪を被った赤い岩が広大な窪地を覆って、実に美しい眺めだった。

再び小雪の舞うカタラクト溪谷やアメリカインディアン居住地のナバホを走り、モニユメント・ヴァレー入口のブラフのホリデーインへ向かう。この辺りの唯一の宿で、予約が取れたのは幸運だった。荒野にポツンと営

業しているこのホテル以外は何もないので、ここで夕食を摂った。ホリデーインの部屋の間取りは全米のどこも同じで子供連れにはうれしい。大きなサイズのクイーンベッドが二つあり、更にエキストラベッドや持参の子供ベッドも置ける広さがある。この部屋代は、家族五人が一泊50ドル以下で泊まれ、ここで二泊した。電熱器も持参したので、長い夜の夜食は持参の即席麺を食べた。

冬雨や浸蝕砂岩の山に紋

峪広く赤き箭土の雪化粧

▼雲の動きは速いが、天気恵まれた翌朝は、広大なモニュメントバレーを一日かけて、ゆっくり巡れば、あの映画「駅馬車」の場に没入した気分にもなる。名前が付けられた「三姉妹」、「親指」などの岩がそそり立つ。自然の奇なる営みの大きさと、西部開拓時代が目の前に地平線まで広がる。ここは自然公園と云うより、インディアン居住区として保護されているが、インディアンや他の観光客にも

遇う事もなく、未舗装の道を気ままに車を巡らせて、様々な奇岩の姿を堪能できた。

モニュメント・バレーから車を四州コーナへ走らす。ここは、ユタ、アリゾナ、コロラド、ニューメキシコの州境線が十字に交差する場所で、160号線沿いにある。小雪の舞う寒い所だったが、時

たま訪れる観光客を相手にして、原住民の女性が独り露店でビーズ飾りなどの土産を売っていた。僅かな個人観光客が立ち寄るだけなのに・・・。辺りは荒涼とした雪のちらつく荒野だけ。そんな大西部でゆっくりと一日を過ごし、日没の前に宿に戻った。

▼翌日は、車を西に向けて160号から64号を走らせて、グランドキャニオンへ入る。グランドキャニオン入口の標識には薄つすらと雪が残る。先住民族プエブロが1200年前から住んでいたツサヤン遺跡に着いた。この



モニュメントバレーにて

地で先住民族はトウモロコシなどの穀物農業を行っていたと云われる。800年前の住居跡や発掘物が丁寧に遺跡を模した石の建物内に展示解説されている。

その博物館はコロラド川の大渓谷の東の端にあり、そこから西はグランドキャニオンの深い渓谷の南の縁で、夕日に映える北側の壁を見る事が出来る。その対岸まで幅は20km以上、深さ1.2kmの渓谷が300km以上続く大自然の威容に、ただただ驚くしかない。道路には所々に見晴台がある。そこからは川の流れが渓谷の底に止まってる様に細く見える。対岸の北壁は冬の夕日が当たり、時間と共に、我々の立つ南壁の投影が深い峪底から次第に上へと動き、明から暗へ移る光景は実に印象的だ。この辺りは多くの観光バスが入るので運転には注意を要した。

遥かなる赤い砂漠の斑雪

雪片の落ちる遥かな峽の底

続く